

水道・屋内配管用ステンレス鋼管の化学物質安全情報

平成 15 年 10 月 1 日

ステンレス協会

配管システム普及委員会

水道・屋内配管に使用されていますステンレス鋼管用ステンレス鋼の固体としての化学物質に関わる安全情報を提供させていただきます。

本資料に掲載された情報は、本資料の発行時点における一般的な安全性を説明するためのものであり、それによってステンレス協会が同製品の安全性を保証するものではありません。従いまして、ご使用になられる皆様は、必要に応じて用途、用法に適した安全対策をとられますようお願い申し上げます。

水道・屋内配管用ステンレス鋼管に関する具体的な情報や、さらに詳しい情報につきましては、各ステンレス鋼管メーカーにお問い合わせください。

1. 製品名

- (1)化学物質等(製品)の名称 : 水道・屋内配管用ステンレス鋼管 (給水・配水・給湯・中水・空調 等)
- JIS G 3448 (一般配管用ステンレス鋼管)
- JIS G 3459 (配管用ステンレス鋼管)
- JWWA G 115 (水道用ステンレス鋼管)

2. 組成、成分情報

- (1)単一の化学物質・混合物の区分 : 混合物
- (2) 化学物質等の化学特性 : 合金を形成し安定している
- (3) 主な成分

化学名 又は一般名	構造式	濃度又は濃度範囲 (質量%)	CAS No.
鉄	Fe	残量	7439-89-6
クロム	Cr	10～30%	7440-47-3
ニッケル	Ni	0～30%	7440-02-0
マンガン	Mn	0～10%	7439-96-5
モリブデン	Mo	0～10%	7439-98-7
銅	Cu	0～5%	7440-50-8

主成分および濃度については、鋼種規格により異なる。

CAS No.とは米国化学会において化学物質検索を容易にするために付けられた番号。

3. 危険有害性の要約

(対象物質が、人の健康に対する有害な影響、環境への影響、物理的・化学的危険性等の重要な危険、有害性を有する場合に、その旨を要約して述べる)

: 危険有害性に関する有用な情報はない。

4. 応急措置

事故等における応急措置 : 1)切断面にて切創等をした場合、傷口を消毒し必要に応じて医師の手当てを受ける。
2)ヒューム、粉塵を吸入し呼吸器官系に異常を感じた場合、速やかに医師の診断を受ける。
3)ヒューム、粉塵が目に入った場合、大量の水でよく洗い、速やかに医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

: 一般環境下では燃焼、爆発性はない。

6. 漏出時の措置、除去方法

: 一般環境下では固体であり、漏出しない。

7. 取り扱い及び保管上の注意

(1) 取り扱い上の注意点

- 1) 本製品にたいし溶接、溶断、研削等の作業を行い、ヒューム・粉塵等が生じる場合は、暴露限界以上のヒューム・粉塵の影響を受けないように、保護眼鏡、防塵マスク等の着用や換気措置をすること。(なお暴露限界値については「日本産業衛生学会勧告値」や「ACGIH:米国産業衛生専門家会議勧告値」を参照のこと。)
- 2) 切断面が鋭利なため、取り扱いには保護手袋を着用すること。

(2) 保管上の注意点

- 1) 水濡れ、酸・アルカリもしくはそれらを含んだ物質との接触、高温多湿の環境を避けること。
-

8. 暴露防止及び保護措置

: 一般環境下では、該当なし。

但し、溶接、研削等の作業では取り扱い注意事項を参照のこと。

9. 物理的及び化学的性質

(1) 物理的性質

形状	:	管状の固体
色	:	銀白色
臭い	:	無臭
融点	:	1400 以上
密度	:	7~9 g/cm ³

(2) 化学的性質

溶媒に対する溶解性 : 水には不溶性。強酸(塩酸、硫酸等)、高温アルカリには多少溶解す

る。酸化性酸では不働体皮膜が形成される。

10. 安定性及び反応性

- (1) 安定性 : 一般環境下では化学的に安定している。
(2) 危険有害な分解生成物 : 溶接、溶断時には金属化合物のヒュームを生成する。

11. 有害性情報

- (取扱者が対象物質に接触した場合の、有害な(健康)影響についてのべる。)
: 接触による有害性の知見は見当たらない。

12. 環境影響情報

- (対象物質の移動性、残留性(分解性)、生体蓄積性、環境中で予想される挙動、起こり得る環境影響、生態毒性の情報についてのべる)
: 一般環境下では、一般鋼に較べて分解(腐食)されにくい。

13. 廃棄上の注意

- : ステンレス鋼材スクラップとしてリサイクルすることができる。

14. 輸送上の注意

- : 特になし。

15. 適用法令

- : 特になし。

16. その他の情報

- : 特になし。

以上